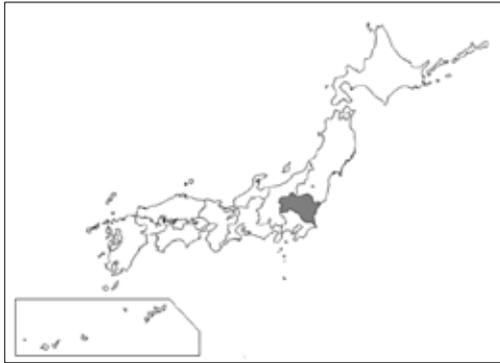


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

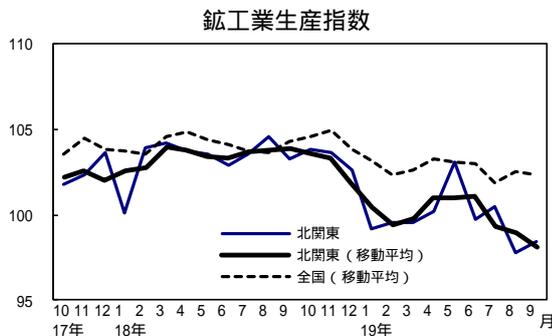
前回からの主要変更点

	前回 (令和元年8月)	今回 (令和元年11月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	弱含み	
雇用情勢	着実に改善	改善	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は弱含んでいる。

7 - 9月期には、「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、減少した。「輸送機械」は、減少した。「汎・生産・業務用機械」は、減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラ製品	20.1	1.4	3.4	4.7	0.7	3.0
輸送機械	18.3	6.7	4.6	4.2	3.0	1.9
汎・生産・業務用機械	17.1	1.6	0.9	2.8	4.4	0.9
食料品・たばこ	12.1	1.2	-	0.1	1.4	-
電子デバ、電気・情報通信	11.2	0.8	2.0	0.2	4.8	8.0
鉱工業	100.0	1.6	2.1	0.8	2.7	0.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。

2. 全国及び北関東の大線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

3. 北関東は内閣府にて算出。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

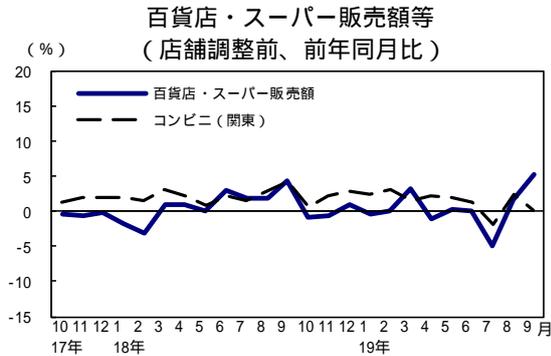
7月は前月比0.9%減、8月は同0.5%増、9月は同4.4%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

7月は、衣料品、身の回り品が低調であったことから前年を下回った。

8月は、飲食料品が好調であったことから、前年を上回った。

9月は、身の回り品、飲食料品が好調であったことから、前年を上回った。



	2019年7-9月	2019年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.2	0.9	0.5	4.4
百貨店・スーパー(*2)	0.5	5.0	1.7	5.3
コンビニ(*3)	0.3	1.8	2.5	0.3
乗用車(*4)	10.7	2.4	9.1	19.0
(季節調整値)(*4)	7.6	2.5	12.2	3.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

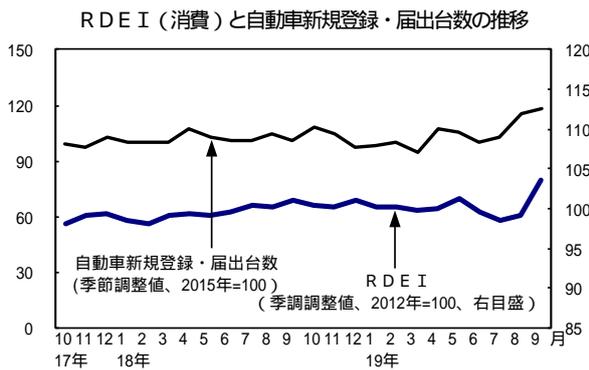
2. 店舗調整前、前年同期(月)比

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

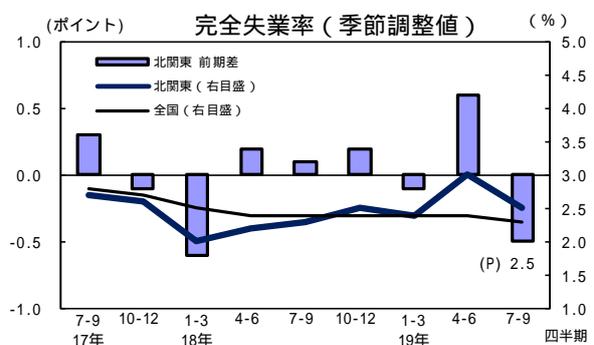
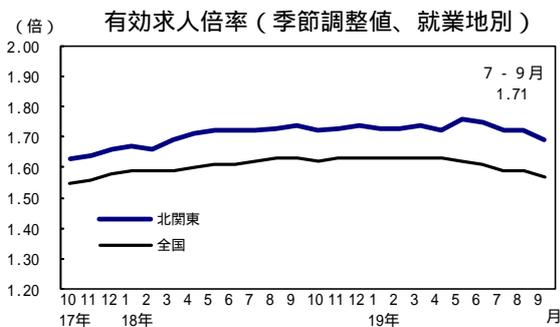
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。季節性が認められなかったことから原数値と同じ。

2. 7-9月期の値は暫定値。